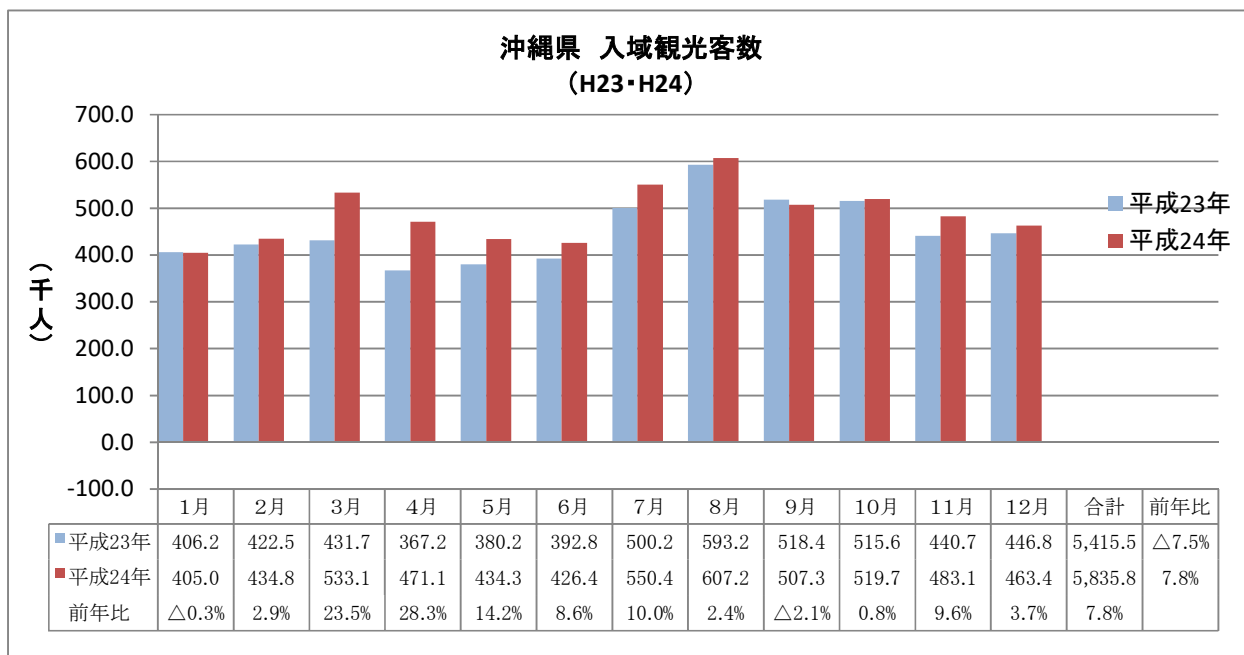


## 平成24年 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課  
平成25年1月発表

### 入域観光客数（国内+外国）



平成24年(暦年)の観光客数は、583万5,800人  
 対前年(H23)比 +42万300人、+7.8%  
 ・国内:545万9,100人 (+6.3%) 構成比:93.5%  
 ・海外: 37万6,700人(+34.5%) 構成比: 6.5%

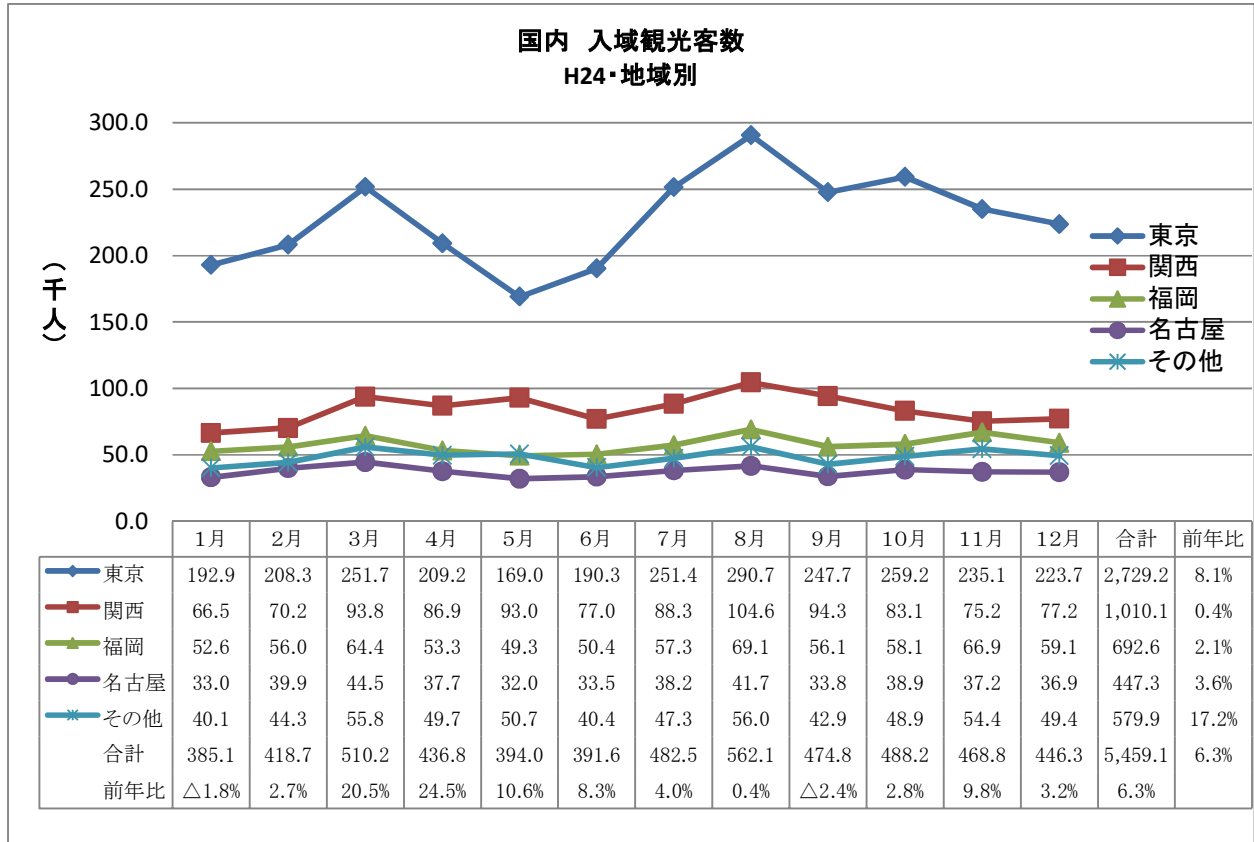
### 平成24年 観光客数について

平成24年(暦年)沖縄県の入域観光客数は、年間583万5,800人となり、対前年比で42万300人増加、率にして+7.8%となった。

平成24年の概況として、円高の影響で割安感のある海外競合地、東日本方面、関東の商業施設等の国内の観光競合地の影響、夏場の繁忙期に襲来した台風の影響等による伸び悩みの要素はあったものの、東日本大震災の観光自粛に伴う反動、国内LCCの誘客効果、海外からの航空路線拡充や大型クルーズ船寄港等が寄与したことで好調に推移し、ほぼ一昨年(平成22年の585万5,100人)並みの水準となった。

## 国内観光客数について

年間 545 万 9,100 人となり、対前年比で 32 万 3,600 人増加、率にして+6.3%となった。



### 東京方面

震災復興による東日本方面への旅行需要増加、関東の商業施設（スカイツリー、TDR 商品等）の国内観光競合地の影響があったものの、比較的低価格の旅行商品が好調であったこと、成田からの LCC 就航（ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパン）による誘客効果により前年実績を上回った。

### 関西方面

前半は九州新幹線による九州方面への旅行需要増加、TDR 商品の影響はあったものの、特に関西国際空港からの LCC 就航（ピーチ・エア・ビエーション、ジェットスター・ジャパン）による誘客効果や修学旅行需要の回復等により前年実績を上回った。

### 九州方面

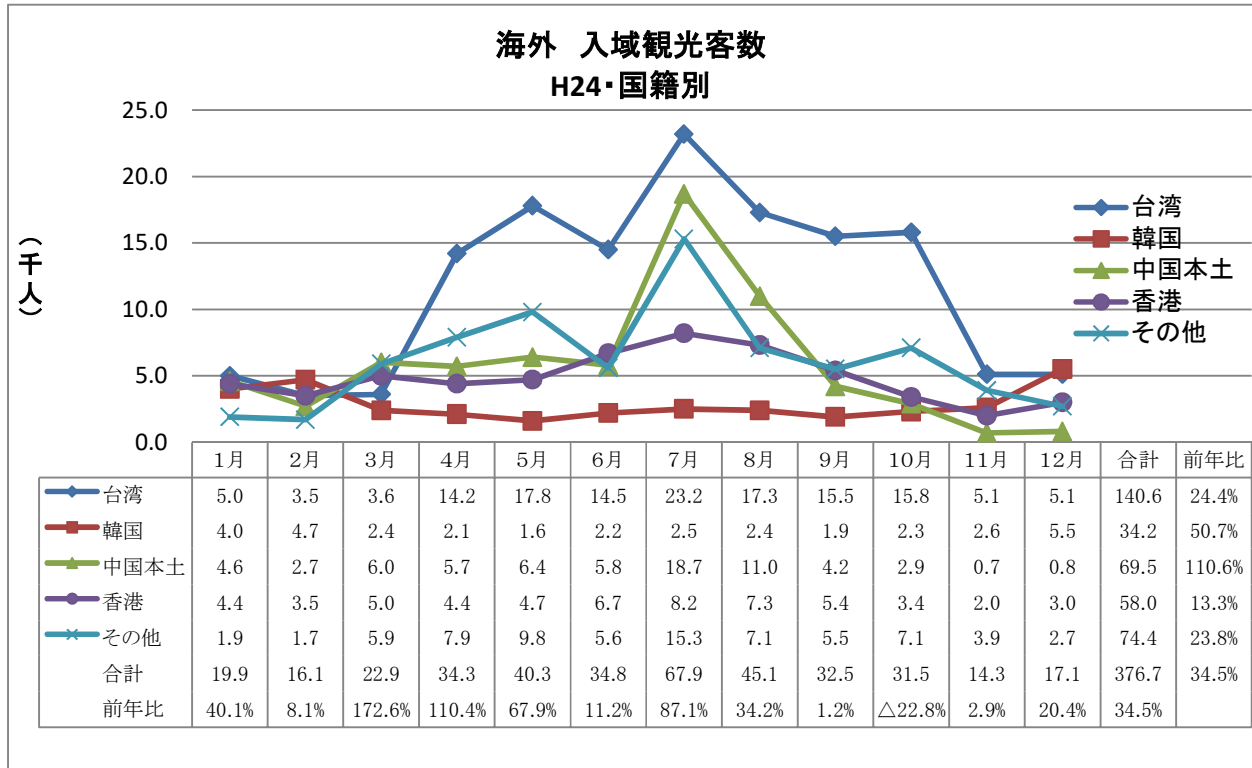
春、夏の旅行シーズンでは近距離の韓国、直行便があるハワイ方面が好調だったものの、年初と年末は九州新幹線による九州圏内旅行が落ち着き、沖縄への旅行需要が回復したことで前年実績を上回った。

### 名古屋方面

円高の影響により海外競合地の影響はあったものの、県内イベント（花火大会、首里城祭等）、離島関連商品の旅行会社によるキャンペーン、寒冷による温暖な沖縄への旅行需要が高まり、前年実績を上回った。

外国人観光客についての

年間 37 万 6,700 人となり、対前年比で 9 万 6,700 人増加、率にして +34.5% となった。



台湾

オープンスカイ協定（H23/11）締結による新規航空路線（復興航空、華信航空）の就航により空路客を中心に大幅な増加となった。沖縄への旅行需要は比較的安定しており、尖閣関連の影響もあまり見られない。

韓国

沖縄でのドラマ撮影、テレビショッピングの商品販売、プロ野球の沖縄キャンプ等により沖縄の知名度が定着しつつあり年々観光客数が増加している。特に年末にかけてはアジアナ航空によるソウル線増便、釜山からのチャーター、初の海外 LCC ジンエアーの就航により大幅な増加となった。

中国本土

昨年の数次ビザ発行（H23/7）以降、H23 年前半は上海からの中国東方航空のみだった航空路線は北京からの海南航空、中国国際航空の新規就航を加え、さらに 7、8 月には大型クルーズ船の寄港により観光客数は大幅な増加となった。9 月以降、尖閣諸島関連の影響により厳しい状況が続いているが、年末からは減少傾向の下げ止まりの傾向もみられる。

香港

平成 24 年前半は震災の影響からは回復し、香港からの沖縄への旅行需要は安定していたため好調に推移していた。10 月以降、尖閣諸島関連の影響が顕著に見え始め、観光客数が減少傾向にあるが、中国本土ほどの影響は見られず、香港についても年末から減少傾向の下げ止まり傾向が見られる。